さりげないスナップ写真のすてきな笑顔のように
群馬の教育や文化の話題を普段着のまま紹介するシリーズ

すなっぷ

道徳教育は何を追求するのか

平成30年度小学校で
平成31年度中学校で教科化

今年度から小学校で、来年度には中学校で道徳の「教科化」が本格実施されます。学校で「道徳」の授業を受けた記憶は多くの人にありますが、これが国語や算数などのように評価され、その結果が通知表に成績として記載されるとなると疑問や不安を感じる人が少なくないと思われます。私たちは、すでに実践に取り組んでいる二つの中学校を訪問し、授業を取材しました。

太田市立南中学校田中光則先生による道徳の授業

ようやく春の暖かさを感じる３月６日（火）、太田市立南中学校での道徳の授業を守随、倉林、須田の３人で取材しました。田中光則先生からは、これまで自らが担任する１年１組で取り組んできたディベート形式の授業を行うとのお話を聞いていましたが、どんな内容で話し合いが展開されるのかは聞いていなかったので期待に胸ふくらませて教室に入りました。

日本で一番大切な決まりは何？

すでに机が教卓に向かって半円形に並び、来客を気にする様子もなく直ぐさま授業が始まりました。事前にどのようなテーマで道徳の授業が行われるのか知らされていませんでしたが、田中先生の最初の発問は「日本で一番大切な決まりは何？」でした。直ぐさま「戦争をしない」「人を殺さない」などさまざまな声が上がります。そこで先生は日本国憲法に触れ、重要な条文は何だろうと聞きました。生徒からは 49、53、99 などこれもまたあちこちから声が上がります。先生は「どの条文も大事だけど、今日は今、改正問題で話題になっている九条について考えてもらいます」と言いながら黒板に憲法九条が書かれた大きな紙を貼り出しました。

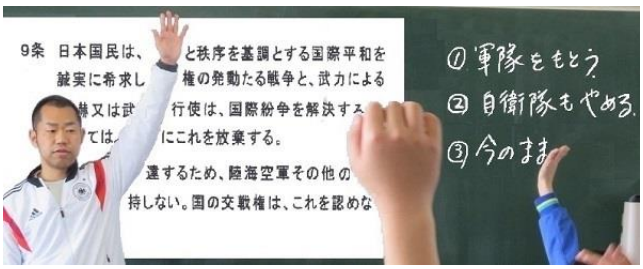
「憲法９条３項」に賛成か反対か

憲法は国が過ったことをしないためにあるものと簡単に触れ、「教師は憲法を守る立場にいるし、田中光則という一人の国民の立場からすれば、政府に対して戦争をするんじゃないと言える立場にいる」と話しました。そして、「いまこの九条を変えようという動きがあり、**３項**を作って自衛隊を明記するということが持ち上がっている」とし、世論の動きなどから３つの考え方を生徒に示しました。

①軍隊を持とう
②自衛隊もやめる
③今のまま

この３項を付け加えることに対して賛否の挙手を求めました。おおよそ賛成と反対は 1 対２の割合でした。全員の意向を掴んだところで賛成の意見と反対の意見を聞いていきます。

賛成　自分の国を守るのだから書き加える
反対　戦争をしなければいいのだから付け加えない
賛成　海外派遣もあるから入れる
賛成　書き加えてしまえばそもそもの論争が無くなる



自衛隊って何？

何人かに聞いていく途中に、「自衛隊って何？」と声が飛びました。先生は「難しい質問だけど､憲法には自衛隊は書かれていない。何故かというと憲法が作られた時には自衛隊は無かったから｣と簡単に歴史的経緯を説明。「自衛隊って何？」という質問を受けて更に生徒は考え、発表をしていきました。

賛成　自衛隊は災害救助等があるから必要
反対　自然災害救助を目的とする組織を作れば良い
反対　自衛隊は武器を持っているので、書き込めば自衛隊は戦争をすることになる

戦争という言葉が出たところで、先生から「北朝鮮がミサイルを発射したらどうする？」という問いかけがあり、不規則発言ながら生徒から「ミサイルで撃つ」といった声がありました。さらにビックリする発言がこの次に飛び出しました｡｢本当は日本と北朝鮮は仲がいいんじゃないの？」衆議院選挙前は頻繁にあったのが選挙後は一つも無いということに関心を持ったようです。こうした声を受け止めながら更に賛否の意見が続いていきます。

反対　戦争を起こさないのが大事で、そのために政府がある
賛成　災害で人を助けるから明記したほうがいい
反対　（首相が）書き加えても何も変わらないと言うのなら入れなくていい(同意見多数)
反対　武力を持っているので付け加えるのは反対

なぜ憲法を変えたいのだろう?

先生からは「変わらないなら入れる必要はないという意見が多いようだが、どう思う？」と聞きます。すると鋭い意見が飛び出しました。

生徒　「なぜ、安倍さんは憲法を変えたいのだろう」
生徒　「歴史に名前を残したいから」

田中先生は「戦争が起これば自衛隊員は死ぬかもしれない。安倍首相は自衛隊員が死ぬこともあるということをつかんでいると思う。だとしたらどうしたらいいだろう」と投げかけました｡｢一番いけないことはどうでもいいと思ってしまうことではないか｣と述べ､｢子どもの権利条約には意見表明権があり、子どもも意見を述べることができる」と続けました。また「日本では１８歳になったら選挙権があるけれど、その年にならないとこうした問題を考えてはいけないのだろうか。そんなことはない。ドイツでは中学生も高校生も選挙権がない前からどの政党に投票しようか自分の考えを持っている」と話してこのテーマでの議論は終わり、最後は残り５分ほどで授業の感想を書いて終了となりました。

終わって清々しい気分

この日は短縮授業ということもあって展開が速く感じられましたが、この難しいテーマに生徒たちはてきぱきと反応し驚きでした。

先生と生徒、生徒と生徒のキャッチボールが無理の無い形で進み、中学１年生とは思えないほどでした。こうした道徳の授業のやり方は 11 回目になるということで、生徒たちは何の抵抗もなく素のままの姿で臨んでいると思いました。同校の学校の教育目標は「自ら気づき、考え、行動する、自立できる生徒の育成」とあります。そして道徳は「考え、議論する道徳の授業づくり」とし、「実態把握からの資料の選定・分析」「発問の工夫」等に視点をあてて計画的に研修を推進するとしています。道徳を様々なテーマで議論し、決して一つの答を出すというのではない授業展開に清々しさを感じました。

（須田章七郎）

生徒の感想

賛成。軍隊は人を殺すだけで何もしないけど、自衛隊は国や人々を守ってくれたり、助けてくれたりして、国民にとっては大切な存在だから、３項を付け足してもいいと思いました。

反対。安倍さんが言ってるんだから何かしらの裏があると思います。

反対。今のままでも自衛隊は国を守っているし、政府が裏で戦争に使おうとしているのかもしれない。さらに、自衛隊も国民と同じ人間だから、その人たちの命も簡単に扱ってはいけないと思う。安倍総理も「変わらない」と言っているのであれば、余計なことをして、今の憲法をわざわざ変える必要はないと思います。

反対。今まで大きな問題も起きていないので変える必要はないと思います。僕はこのディベートを通して、この問題は僕たち国民にも関係しているということを知りました。だから、世の中の出来事をしっかり考えようと思いました。

賛成。もし大地震が起こって津波が来たとき、真っ先に動いて人々を助けなきゃいけないから、書き込んだ方がよいと思いました。

反対。今のままでいいと思った。

反対。戦争がどうとか言っている前に、政府がまず話し合えばいいと思います。

賛成。自衛隊がいなくなってしまったら、何かあっても助けてもらえず、私たちの生活に支障が増えてしまうのではないか、と思ったから。私はまだ子どもだけど、自分の意見に自信をもって、どんな時でも意見を言えるようにしたい。

賛成。自衛隊が何をしているのかを書くべきだと思う。自衛隊は何のためにあるのかを知って、国民が理解した上での活動をした方がいいと思う。

反対。別に今まで大きな問題もなかったし何も変らなそうだから無駄にお金を使うのはもったいないと思いました。それに憲法に書かなくてもすでにあるんだから別にいいと思います。

反対。自衛隊は災害のときも活動するから必要という意見がありましたが、災害に対しては、新しく組織を作るか、今ある消防隊なども活動できるのではないかと思います。自衛隊は武器をもつことができます。武器をもつということは戦争への対策ということになると思うので、第９条と少し矛盾しているところがあるのではないかとも思いました。今回のテーマはこれからの日本で、とても大事になってくるものだと思います。なので私たちは政治などについて、もう少し知っておくべきなのではないかと感じました。

賛成。国民を災害から守ってくれるので、書き込むことはいいと思います。色々な人の意見を聞いて、自衛隊は武器を持っているから、そのまま戦争をしてしまうということにも納得しました。何も変わらないと言っても、多分安倍さんなら変えると思います。けど、自衛隊はなくさないでいた方がいいと思います。

賛成。自衛隊をもつことにどうこう言っているのがおかしいと思うし、国を守ってくれるのだから、存在がちゃんとあった方がいいと思いました。

反対。安倍総理も「書き込んでも何も変わらない」と言っているのなら、わざわざ足すことはないと思います。いざ戦争になったらどうするかを考えるよりも、まず戦争を起こさないことの方が大切だと思います。それに国民投票で、たくさんの税金を使うくらいなら、もっと他に役立つことに使った方がいいと思います。

反対。３項を付け足してしまうと、戦争をする前提で、国を守るためにつける感じがするから、付けなくていいと思う。

反対。今までずっと３項がなくても大丈夫だったわけだから、これからも変えなくて大丈夫だと思ったからです。他の人の意見を聞いて、自然災害の時とかに助けてくれたりするので必要だと思うし、自衛隊をなくしてしまうと、自衛隊の人たちは何の仕事をするのかでまた大変になってしまうと思います。

反対。困ったことは今起きていないので、そのままでもいいと思ったからです。自衛隊を書き込むと他の国から何か言われてしまい、貿易などの信頼をなくしてしまうかもしれないと思いました。

反対。３項を付け足したとしても何も変わらないなら、付け足さなくていいと思います。それに３項を付け足したら、戦争しようとアピールしていると感じるからです。

賛成。自衛隊があれば、日本で起きた災害で国民を助けることができるから。

反対。憲法で「軍隊を持たせない」と言っているのに、「自衛隊はよい」と書くと紛らわしくなって、そのことが原因で争いなどが起きてしまうかもしれないから。

反対。３項を加えてしまったら、戦争が起こることを予想しているような感じがするし、武力をもってはいけないと決まっているのに自衛隊を許可してしまったら、憲法内で矛盾が起きてしまう気がするからです。今、不自由なく生活できているので、加える意図が分かりません。私たちはこれからの世界を、自衛隊なんかいなくても日々が平和に過ごせるように変えていかないといけないと思います。

反対。今のままで何も不便がないし、１つ付け加えたらどんどん増えていきそうだから反対です。自衛隊は災害とかで困っている人を助けるだけでいいと思いました。助けるだけならわざわざ付け加えなくても大丈夫だと思います。自衛隊は国を守るものですが、ミサイルが飛んできたとき撃ち返したら、それはもう戦争と同じだし、逆に国が危なくなると思います。

反対。政府が言っていることなので、３項を付け足すことで、何か政府にとって都合のいいことができるようになるかもしれないからです。賛成の意見を聞いて、自衛隊の存在をはっきりさせて救助などをできるようにしようという意見もあったけど、別に憲法に書かなくても、自衛隊はもう救助などを行っているので付け足さなくてもいいと思いました。

賛成。自衛隊が武器などで人を傷つけたり殺したりしなければいいし、自然災害のときには救助してくれるから付け足してもいいと思いました。

反対。私は最初反対意見でしたが、みんなの意見を聞いて賛成になり、そして今は半々でどっちもです。３項を付け足したら、もしかしたら「自衛隊がいいなら軍隊もいいじゃないか」ということになってしまうとも思いました。でも政府が「何も変わらない」と言うならば（信頼できませんが）いいと思います。変える変えないより、今のままが一番いいと思います。

賛成。この間ニュースで「災害時に自衛隊員が一般人を守った」というのをやっていたからです。また自衛隊の立場からすると、自分たちの存在が認められていないみたいで嫌なのではないか、と考えました。

反対。安倍さんのやっていることがあり得ないし、信じられないし、平和を維持しようとしているのかさっぱり分からない。今日はたくさん意見が言えてよかった。すごく考えることができて、自分の意見を言うと気持ちがよい。

賛成１１　反対２２

◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆

考え、議論する道徳　　太田市立南中学校教諭　田中　光則

◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆

道徳の教科化と同時に、「考え、議論する道徳」が推奨されるようになりました。私自身は道徳の教科化そのものに反対していますが、「考え、議論する」ことが重要であるという点については同意できます。そこで今年度は、どのような授業をすれば「考え、議論する」力をつけられるのかを考え、ディベート形式（正式なルールには則っていません）の授業

を中心として道徳授業を展開してきました。

今回の授業では､安倍首相が提唱している、憲法９条に３項を付け足し「自衛隊の存在を憲法に書き込む」ことに賛成か反対かといった論点で行いました。私が社会科教師ということもあり、憲法の話はよくしているので、生徒たちも取り組みやすい題材だったと思います。

賛成反対の２択

議論を充実させる工夫として、まず賛成、反対の二択にして、生徒たちが自分の立ち位置を確認し、議論しやすい雰囲気を作ることを心がけました。また、自分とは異なる意見でも最後まで聞くこと、野次や威嚇によって同調圧力をかけないことを普段から意識させ、どんな意見を言っても中傷されない安心感のある空間を意図的に作っています。

授業は生徒の人間的成長を目指す

道徳授業を組み立てる時、多くの先生が指導要領の内容項目（文科省は価値項目とは言いません）を最初に考えますが、それは間違っていると思います。なぜなら授業は指導要領に生徒を当てはめるために行うものではなく、目の前の生徒たちの人間的成長のために行うものだからです。そもそも､「この題材を用いることによって、こういう道徳的価値が育つ」と信じること自体に根拠がありません。

指導要領に則って

とはいえ指導要領を無視する訳にはいかないので、あえて今回の授業を内容項目に当てはめるならば、【法令遵守】【伝統・文化の尊重】【国を愛する態度】になるかと思います。憲法を守り、戦後の不戦の伝統・文化を尊重することで、憲法９条をもつ日本を誇り、愛する態度につながる…かもしれません。でも、つながらなくてもいいのです。大事なことは、思考を形づくるための客観的事実を知ること。そして自分の頭で考え、他者と意見を交わす中で、自分自身の考えを更に深めること、だと考えています

桐生市立境野中学校重野勝美先生による道徳の授業

テーマは「ヒューマン」

３月 15 日（木曜日)、境野中学校を訪問しました。境野中学校はこじんまりした中学校で、隣は小学校です。この日の取材スタッフは、須田章七郎、平野和弘、瀧口典子。

教頭先生にご挨拶をしてから、１年１組の教室に向かいました。すれ違う生徒たちは皆「こんにちは」と挨拶をしてくれます。１年生は 77 名ですが､「わかばプランのおかげで」（教頭先生）３クラスの少人数編成です。教室に入ると確かに後ろがゆったりして活動しやすそうです。生徒は○○名、男女仲良く並んで着席していました。

授業を担当するのは重野先生で学年主任です｡全クラスの道徳の授業を担当しています。生徒たちは、私たちがいても緊張する様子もなく、普段と同じような感じです。

人間の分かち合い、でもなぜ争うのか

今日の道徳の授業のテーマは「ヒューマン―なぜ人間になれたか―」。NHK スペシャルの番組映像を見て考える授業です。今日は２回目で第１集「旅はアフリカから始まった」の後編を見て考えます。

先生は黒板に、前編のまとめを書きました。

◎人間「分かちあい」

◎人間の能力　　・自発的に協力できる

・仲間をすごく大切に

そして、前編の問題＝（それなのに）なぜ争うのか？について、生徒が書いた意見を紹介していきました。生徒は様々な角度から考えていました。先生が全クラスの意見と感想を丁寧に読み込んで、プリントにまとめてありますが、プリントを読む時間はとれません。その中から、このクラスの意見を、「〇〇君はこう言っていたよね」「◎◎さんの意見はユニークだった、読んでみてくれる」と、紹介しながら、要点を板書しました。

「 ・ 意見の違い ・ 土地、領地の争い ・・ 差別、平等でない ・（自分たち仲間を）守る 」

人間だけができる特殊な協力とは

今日の映像（後半）のポイントです。各教室の前にはスクリーンが設置されているので、生徒はその場でテレビの映像を見ることができます。キイロタマホコリカビという粘菌が、栄養がなくなった時に集合体を作り「協力」する様子が動きのある映像で紹介されました。しかしキイロタビホコリカビは遺伝子の同じグループしか協力できないのです。

でも、人間は、見ず知らずの他人と協力できる。これは、人間にだけにできる能力です。その証明を黒曜石の分布調査で説明しました。７万４千年前、寒さと食糧難によって絶滅の危機に遭ったアフリカの人間が、わずかな食料を「独占するより助け合って生き延びた」証拠だということです。

何を言ってもいい　心の中は自由

映像を見続けていると、疲れて集中が途切れますので、小休止をとり、意見交換しながらの視聴です。古代人が芋を見ず知らずの人間と分かち合う場面で、先生は「この芋、君たちだったらどうする？」と聞くと、すかさず男の子が「あげない、みんな自分で食べちゃう」と答えました。笑いが起こります。すかさず重野先生「そういうの、好き。何言ってもいいよ。心の中は自由だからね。」

どうやら、「心の中は自由」というのが、重野先生の決まり文句みたいです。道徳の授業に模範解答を強制しない、生徒が自由に意見を言える、という先生の姿勢が伺えました。

あなたは見ず知らずの人と分かち合えるか

番組は、最後に、「分かち合う心は現代の私たちにも受け継がれているのだろうか？」と問いかけていくつかの心理実験や事例を紹介しました。

例えば見ず知らずのプレーヤーがいて、10ドル札10枚があるとして、自分は何枚取り、何枚あげるかの実験。相手にあげるのが、平均アメリカ47%、日本44%、少なくとも20%以上をあげるという結果が出たそうです。

最後の事例は、戦後のアメリカである孤児院の調査。誰にも声をかけられず一人でベッドに居続けた赤ちゃんは（ミルクや食べ物を与えられていても）3分の1が死亡したというのです。子どもに限らず、一人ぼっちはつらい。生徒はシーンとしていました。

さて、今日の大きな問題＝食糧難などの危機で、あなたは見ず知らずの人と分かち合えると思いますか？

生徒たちは、自分の意見を書いていきました。解答用紙の裏面には、後編の内容の要約が紹介されているので、振り返られるようになっています。

やがて先生は生徒に語りました。「この番組は、2011年以前に作られて少しづつ放映する予定だったんだけど、あの東北大震災の後、一挙に放映しました。先生は、この前、こんな経験をしました。3月11日にサッカーの試合をOBも加わってやっていたんだけど、地震の起きた時刻にね、みんなが黙祷したんだ。あの時のことを忘れないでいるんだと感動しました。」

「分かち合う心」…これが、番組にこめた今年度最後の重野先生のメッセージだったのですね。今日の授業で生徒が書いた感想・意見は、学年通信に掲載して紹介するそうです。

（瀧口　典子）

生徒の感想

◆全く知らない人と分かち合い、人類は生き延びてこられたから、分け合うことは大切だと思った。
◆仲間にしてあげたことはいつか絶対に返ってくる。
◆全員が仲間を大切にするのはできないと思う。絶対に悪い心を持った人はいると思うし、そういう人がいない世界はつくれないと思います。
◆見ず知らずの人にも思いやりを持って分け合えることは人間にしかできないと思います。
◆もし自分が８０００円出されても、５６００円くらいはもらうと思う。
◆協力し合う気持ちは、祖先から始まったのは驚きだった。７０ｋｍも離れている見知らぬ人と協力し合えない気がする。
◆人との協力が大事だと分かった。１１カ国での実験で、全部ひとり占めをするところもなく、半分半分にするのが多いと分かった。自分もいろんな人と助け合いたいと思った。
◆生物は仲間と協力することで生き延びたりしているけど、知らない人との協力は少し難しい？でも、生きるためには、相手を思いやる気持ちが大切だと思います。
◆コミュニケーションが必要なのは、多感な思春期などとイメージしやすいけれど、自分が意志を伝えることが難しい幼児期でさえも、会話、意志疎通が大事。
◆人間はひとりが嫌いだから協力する。だけどやり過ぎると意見が分かれてしまい争う。だから、協力し、争う、それが人間そのものなのではないかと思った。
◆絶滅しそうになっても、協力があれば生きていけることが分かった。
◆仲間と協力することは生物でもできる。しかし、同じグループの遺伝子しか協力できないと聞いて、人間でいう家族や親戚だけしか協力できないんだと思った。しかし人間は、他人と仲良くできる能力を持っていると言っていて、少し不思議に思いました。
◆人間はいろいろなものや人に助けられたり助けたりする。そんな難しいことなのに、人間はあたりまえのようにしている。とても素晴らしいと思った。私もそんな風にしたい。
◆食糧難の時は、自分ひとりなら分けられると思うけど、家族がいる場合、自分の判断だけで決めるのはできないと思う。状況によるけど、なるべく分け合えるような人になりたい。
◆人間は、コミュニケーションをとらないと死んでしまうと知ってびっくりした。周りの人と関わり過ぎると不安を覚える。でも、人と関わらないと、逆に不安になったり淋しくなったりして死んでしまうのかなと思った。
◆人間は分かち合いの心がそなわっていて、自分勝手な人しかいないわけじゃなくてほっとした。
◆知らない人に、あんまり自分のはあげたくないけど、困ってたら少しはあげたいです。
◆世界中の調査で、ほとんどが４割あげたことに驚いた。自分ならもう少しもらうのにと思った。人間は、思っている以上に協力しているのだと感じた。
◆人数が多ければ、食糧を探すのが楽になるから分け合える。協力すれば生きていけることが分かった。
◆人間は助け合えるけど、そこが逆に弱点になることがあるというのも分かった。
◆キイロタマホコリカビは、ひとりだけのためにみんなが協力することを知ってすごいと思った。でもこれは、家族や親戚だけの協力であると知り驚いた。
◆キイロタマホコリカビは、子孫を残すために自分の命を犠牲にするなんてすごいと思った。

◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆

「人間とは何か」をテーマに教員が本気でやりたいことを

境野中学校教諭　　重野勝美

◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆

道徳についていろいろ言われるようになりました。言い出したのは、道徳性のかけらも感じられない権力者や、人権や平和・民主主義を否定するような特異な価値観を持った政治集団などです。その要請に、教育の自主性が踏みにじられようとしています。しかし、

道徳は学問的に確立されていません。それだけに、何をしていいかわからないと同時に、教師の責任と判断で何をしてもいいのではないかと考えます。そうであれば、一人一人の教員が本気でやりたいことをするのが一番。そう考えた時、自由な道徳を守るために道徳主任に立候補し、めでたく２年目となります。また、ここ十数年担任をやっていないので、担任から道徳の授業を年に数時間ずつもらうようになって４年目となります。

私の場合、「人間とは何か」をテーマに、ＮＨＫスペシャル「ヒューマン・なぜ人間になれたか？」を利用しながら生徒の意見や感想を聞き、人間の強さや弱さを含め、「心は自由であっても誰もが分かち合いの能力を持っている」という人間らしさを追求しています。そして、不十分ではあっても、国連憲章や世界人権宣言、そして日本国憲法が人類の到達点ではないか。そう生徒に投げかけています。

「考える道徳」「議論する道徳」への転換　　瀧口　典子

学習指導要領では、道徳の学習内容について、中学校の場合は、
A 自分自身、B 人との関わり、C 集団や社会との関わり、D 生命や自然、崇高なものとの関わりの４分野に関して次の 22 の項目が示されている。

①自主・自律　②節度、節制
③向上心、個性の伸長　④希望と勇気
⑤真理の探究、創造　⑥思いやり、感謝
⑦礼儀　⑧友情、信頼
⑨相互理解、寛容　⑩遵法精神、公徳心
⑪公正、公平、社会正義⑫社会参画
⑬勤労　⑭家族愛
⑮よりよい学校生活
⑯郷土の伝統と文化の尊重
⑰我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
⑱国際理解・国際貢献　⑲生命の尊さ
⑳自然愛護　㉑感動、畏敬の念
㉒よりよく生きる喜び。

実際には、授業としてどう展開し、子どもはどう学んだらよいのだろうか。

学習指導要領の解説（平成２７年改訂）を読んでみた。今回の改訂の経緯を述べた上で、「『特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動したりすることは、道徳教育が目指す方向の対局にあるものと言わなければならない』、『多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的な資質である』との答申を踏まえ、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』『議論する道徳』への転換を図るものである。」と基本を述べている。

ここに教師の創造的な授業の根拠と可能性がある。試行錯誤が続くかもしれないが、生徒とともに創る授業は楽しい。

◆◆◇◇◆◆◇◇◆◆◇◇◆◆取材を終えて◆◆◇◇◆◆◇◇◆◆◇◇◆◆

たくさんの課題に対して学校現場ではどのような工夫がなされて道徳の授業が行われているのか知りたいという思いを抱いて取材をさせていただきました。田中先生と重野先生の授業形式は異なるものでしたが、それぞれが「生徒の人間的成長」、「人間の探求」という明確な目標を土台に据えたゆるぎのないものでした。そしてその目標に生徒がしっかり応えていることが「今日はたくさん意見が言えてよかった。自分の意見を言うと気持ちがよい」や、「人間に関わることがいろいろ分かって楽しかった。もっと詳しく知りたくなった」の感想でわかり、大きな充実感とともに取材を終えることができました。お二人の努力に心から敬意を表します。取材を受け入れて下さった学校関係者、生徒の皆さんに感謝申し上げます。

《取材・撮影・編集：平野和弘・守随吾朗・須田章七郎・倉林順一・瀧口典子》